

令和4年度 音楽科 3年 年間指導計画・評価計画

< 1 > 教科の目標

・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

< 2 > 各学年・各分野の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

< 3 > 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現をどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

< 4 > 観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。(80%以上)
	B	おおむね満足できる状況である。(50%以上)
	C	努力を要する状況である。(50%未満)

評 定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度の高いもの。(90%以上)
	4	十分満足できる状況である。(80%以上)
	3	おおむね満足できる状況である。(50%以上)
	2	努力を要する状況である。(50%未満)
	1	一層努力を要する状況である。(20%未満)

< 5 > 指導上の配慮事項

- ① 器楽(リコーダー)練習を通し、呼吸法など音楽活動に必要な基礎的な技能を身に付けさせる。
- ② ワークシートを活用し、音楽の要素や特質を理解させ表現や観賞に活かす。
- ③ パートリーダーを中心としたグループ練習を設定し、主体的に活動できる場面を設ける。

月	題材名・指導時数	題材の目標・教材名	評価規準
4	日本の歌のよさや美しさを理解して、歌唱表現を工夫しよう[2]	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。 「花」	曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。(知) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。(技) 旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。(思) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。(態)
5	曲想を感じ取り、曲の特徴を生かして歌おう[4]	・歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。 「混声合唱曲」	曲想と旋律のまとまりや音楽の構造との関わりについて理解している。(知) 創意工夫を生かし、他の声部の声や伴奏などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。(技) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。(思) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。(態)
6	オーケストラの豊かな表現を鑑賞しよう[2]	曲想と音楽の構造との関わりについて理解し鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え音楽のよさや美しさを味わって聴く。 「ボレロ」	曲想と主題の反復や独奏楽器とオーケストラによる音楽の構造との関わりについて理解している。(知) 鑑賞に関わる知識(曲想と主題の反復や独奏楽器とオーケストラによる音楽の構造との関わり)を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。(思) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組んでいる。(態)
7	ポピュラー音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう[2]	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	音楽の特徴を理解してその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。(知) 音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。(思) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に取り組んでいる。(態)
	リコーダーの基本的な奏法を身に付けてアンサンブルを楽しもう[2]	創意工夫を生かし、全体の響きを聴きながら合わせて演奏する技能を身に付ける。	曲想と旋律のまとまりや形式による音楽の構造との関わりを理解している。(知) 創意工夫を生かし、他の声部や全体の響きを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けている。(技) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫している。(思) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。(態)

8	曲想を味わいながら 合わせて歌おう [8]	・曲想と音楽の構造や 歌詞の内容及び曲の背 景との関わりについて 理解し、創意工夫を生 かし、全体の響きや各 声部の声などを聴きな がら他者と合わせて歌 う技能を身に付ける。 「混声合唱曲」	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解して いる。(知) 創意工夫を生かし、全体の響きや他の声部の声を聴きながら 他者と合わせて歌う技能を身に付けている。(技) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、 曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。(思) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、 曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働 的に取り組んでいる。(態)
9			
10	能の豊かな表現を鑑 賞しよう[4]	・我が国や郷土の伝統 音楽及び諸外国の様々 な音楽の特徴とその特 徴から生まれる音楽の 多様性について理解す しながら、音楽表現の 共通性や固有性につい て考え音楽のよさや美 しさを味わって聴く。	能の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性につ いて理解している。(知) 鑑賞に関わる知識(能の音楽の特徴と、その特徴から生まれ る音楽の多様性について)を得たり生かしたりしながら、音 楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美し さを味わって聴いている。(思) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の 共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わ って聴く学習に主体的・協働的に取り組んでいる。(態)
11			
	音楽を自由に構成し よう[2]	・音階や言葉などの特徴 及び音のつながり方の 特徴について、表したい イメージと関わらせて 理解し、課題や条件に沿 った音の選択や組合せ などの技能を身に付け る。	選択したモチーフの音のつながり方の特徴について、表した イメージと関わらせて理解している。(知) 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要 な、課題に沿ったモチーフの音の変化の仕方やリズムの組み 合わせなどの技能を身に付けている。(技) 創作表現に関わる知識(選択したモチーフの音のつながり方 の特徴)や技能(課題に沿ったモチーフの音の変化やリズム の組み合わせなど)を得たり生かしたりしながら、まとまり のある創作表現を創意工夫している。(思) 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、 まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働 的に取り組んでいる。(態)
12			
	三味線の基本的な奏 法を身に付けて表現 を工夫しよう[2]	・器楽表現に関わる知 識や技能を得たり生か したりしながら、曲に ふさわしい器楽表現を 創意工夫する学習に主 体的・協働的に取り組 む。 「三味線曲」	三味線の音色や響きと奏法との関わりを理解している。(知) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要なばちの持ち 方や勘所の押さえ方などの三味線の基本的な奏法を身に付け ている。(技) 器楽表現に関わる知識(三味線の音色と奏法との関わり)や 技能(ばちの持ち方や勘所の押さえ方などの基本的な奏法) を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創 意工夫している。(思) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、 曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働 的に取り組んでいる。(態)

1	音楽の歴史を学び各時代の音楽の特徴を味わおう[3]	・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。(知) 音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。(思) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(態)
2	仲間とともに、表情豊かに合唱しよう[4]	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともにそれらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。 「混声合唱曲」	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。(知) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。(技) 音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。(思) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。(態)
3			